

春を待つ、小さな冬芽

本橋 綾香

2 月、木々の枝先を見てみましょう。落葉樹はほとんどが葉を落としているこの時期、枝の先端には、色々な形をした小さなものがあります。これは「冬芽」と呼ばれるものです。

冬芽は葉や蕾を折り畳んだものです。クロモジの木を例に、ご説明しましょう。



写真 1 クロモジの冬芽と花

左の写真は、2-3 月頃のクロモジの木の枝先です。細長く先が尖った部分と、丸く膨らんだ部分があります。丸い部分は花が咲く前の蕾を包んだ冬芽です。4 月頃には右の写真のような黄色い花が咲きます。尖った部分は葉となる冬芽です。これも春になると何枚かの葉が開いて大きくなります。このように冬芽とは、暖かくなって植物がすぐに活動できるように冬越しの準備をしている状態です。

寒い冬を乗り切るため、冬芽は様々な形態をしています。皮を何枚も着込んで鱗のようになっているもの、暖かい毛をまとっているもの、粘着質の樹脂に覆われ、害虫から身を守っているものもあります。形が特徴的なオニグルミの木を例に、冬芽のつくりをご紹介します。



写真 2 オニグルミの冬芽

オニグルミは、川沿いなどに多く見られる木です。橋の上など、もし高い木の枝先が良く見えるような場所があれば、探してみると良いでしょう。オニグルミの冬芽を見て目につくのは、冬芽の下にあるいびつな T 字形の窪みではないでしょうか。これは、前年についていた葉が落ちた根元の部分ですが、葉の中を通る維管束の痕が 3 つ残り、まるで目と口のある羊の顔のような姿に見えます。その上で束になっている部分が冬芽です。オニグルミの葉は複数の葉がセットになって広がるため、先端の冬芽は大きく、よく見ると先の方に葉脈のようなすじ模様が見えます。褐色の短い毛に覆われていて、外側の葉は外れることもあります。そのまま葉が開き、大きくなります。

もう一つ、しっかりと皮に包まれる冬芽を紹介しましょう。リョウブの木は冬芽を保護する皮があり、春が近づき外れそうになると、まるで笠のような形になります。

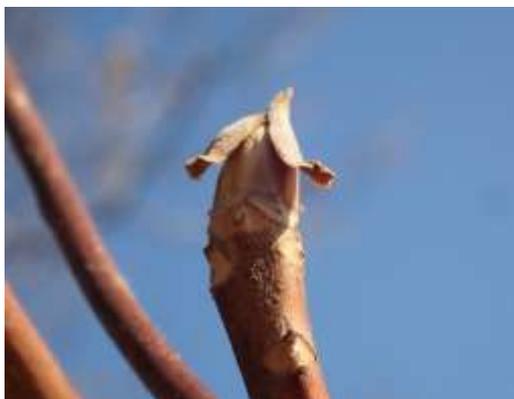


写真 3 リョウブの冬芽

博物館で購入できる『天覧山・多峯主山の植物 秋・冬編』には、このような冬芽をいくつか紹介しているページがあります。冬を乗り越えるための様々な冬芽の形、そして春になって開く様子をぜひ観察してみてください。